

## SJ

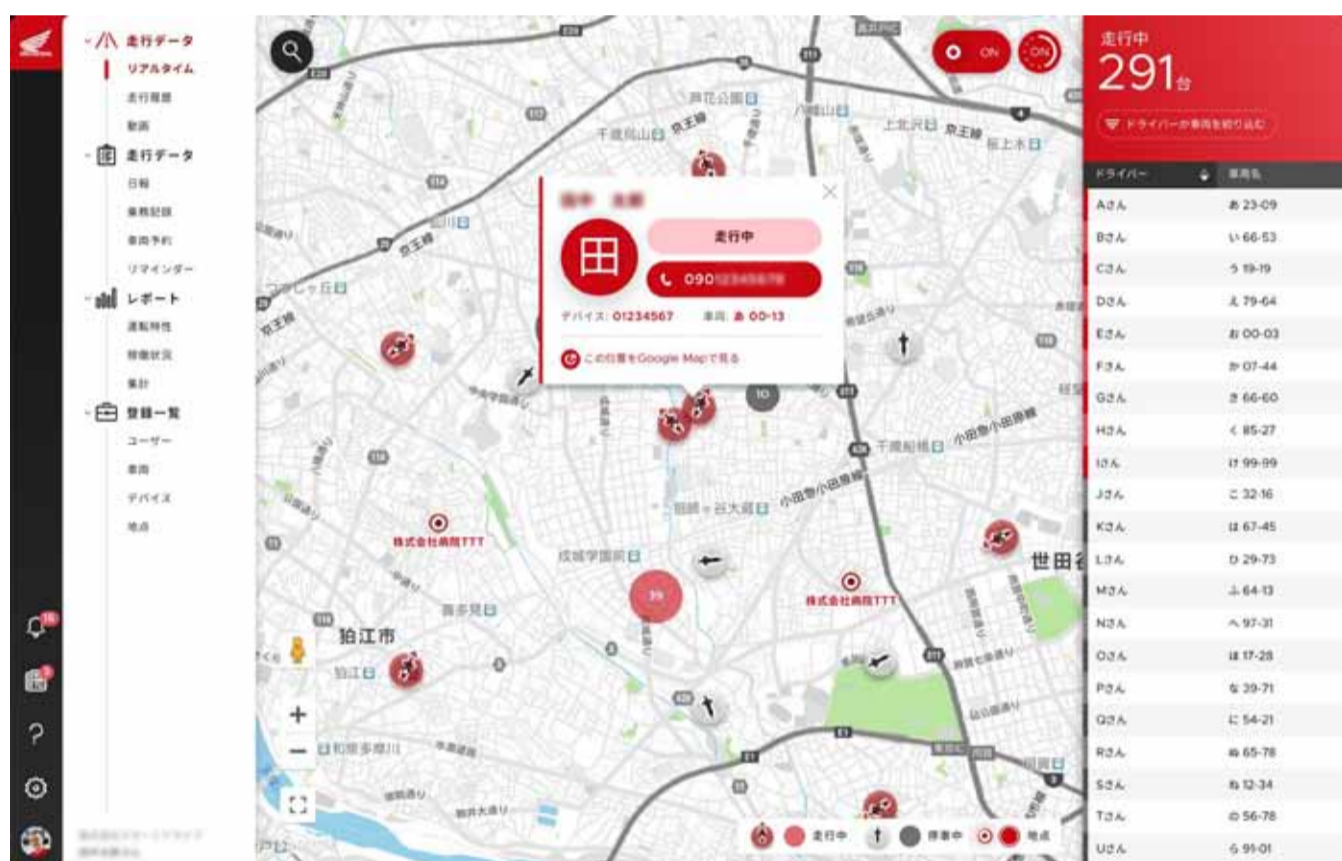
The Safety Japan  
since 1971

## Close Up クローズアップ Hondaの活動

二輪車を利用した業務をより安全で  
効率的に行うための支援

Hondaは昨年10月、ビジネスシーンで活躍する二輪車（三輪車）に車載通信機を取り付けることで、業務運用上の各種動態管理を可能とする二輪車用コネクテッドサービス「Honda FLEET MANAGEMENT（以下、HFM）※」を法人企業向けに開始した。ビジネスユース二輪車のより効率的な運用に活用できるほか、乗務員の安全運転教育にも役立てられることが特長だ。

※このサービスでは（株）スマートドライブのモビリティデータプラットフォームを活用している。



HFMを導入すると二輪車のリアルタイムの稼働状況をパソコンやスマートフォンの画面で確認できる

二輪車の運行管理における  
様々な課題を解決へ導く

トラックなど四輪車には、ドライブレコーダー搭載の車両管理システムやスマートフォンなど個々の用途に合わせて導入できる多様なデバイスが提供されているが、二輪車の車両管理については今まであまり着目されておらず、四輪車と比べ普及が進んでいるとは言い難い状況である。

HFMは業務運用における二輪車の位置情報をはじめ、加速・減速などの運転状況、訪問地点や走行距離等を記録し日報を自動作成するほか、あらかじめ登録した地点への接近・到着を管理者にメールで通知する機能等を備えた二輪車用コネクテッドサービス。日常業務における二輪車の稼働状況をリアルタイムに把握し、取得・蓄積したデータを活用することによって、業務の効率化や乗務員一人ひとりに合わせた安全運転教育ができるというメリットがある。Hondaの二輪車を利用している企業に導入が可能だ。

このHFMの開発と普及を担っているのが（株）ホンダモーターサイクルジャパン。日本国内向けに二輪車、アクセサリパーツ、ヘルメットやウエアなどのライディングギアを販売している。

同社営業部法人販売課 相川秀樹さんはHFMを開発した背景を次のように説明する。

「私たちは車両や洋用品の販売とともに、Hondaの二輪車を利用されているお客様への安全運転教育にも取り組んでいます。その中で、乗務員の運転特性を可視化することで、個々人に合った安全運転の提案ができるのではないかと考えたのです。」

HFMは、TCU（テレマティクス・コントロール・ユニット）という専用の車載通信機を二輪車（ビジネス用を中心にTCUが搭載可能なHondaの二輪車）に取り付けることで利用できる。乗務員が携帯するスマートフォンを活用する方法もあったが、バッテリー切れや電源の入れ忘れがあった時にアプリが起動しないため、車両取り付け型を採用した。これにより、高精度のデータを確実に取得することが可能となる。そして、得られたデータを安全運転教育や、走行ルート最適化に活用するのである。

高精度な運転特性レポートで  
危険運転や運転のクセを可視化

業務に車両を使用している企業では乗務員が交通事故に遭うリスクを抱えており、事故を防ぐための安全運転教育などの対策が課題となっている。こうした課題解決にHFMが役立つと相川さんはいう。

企業における二輪車の安全運転管理においては、乗務員の運転状況がわからないため、一人ひとりの運転特性に応じたアドバイスが難しい。しかし、HFMを活用



HFMはHondaのビジネスユース二輪車を使用した業務を展開または検討している法人企業が対象



TCUという専用の車載通信機を取り付けることで、高精度な走行データを取得できる

## Contents

- P1 Close Up クローズアップ Hondaの活動
- P4 Safety Report セーフティレポート 子ども
- P5 Close Up クローズアップ 交通安全センター
- P6 SJ Interview 香川大学 准教授 大久保智生さん  
香川大学 講師 米谷雄介さん
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P8 危険予測トレーニング (KYT)  
SJクイズ



## Safety for Everyone

Hondaはすべての人の  
交通安全を願い活動しています。

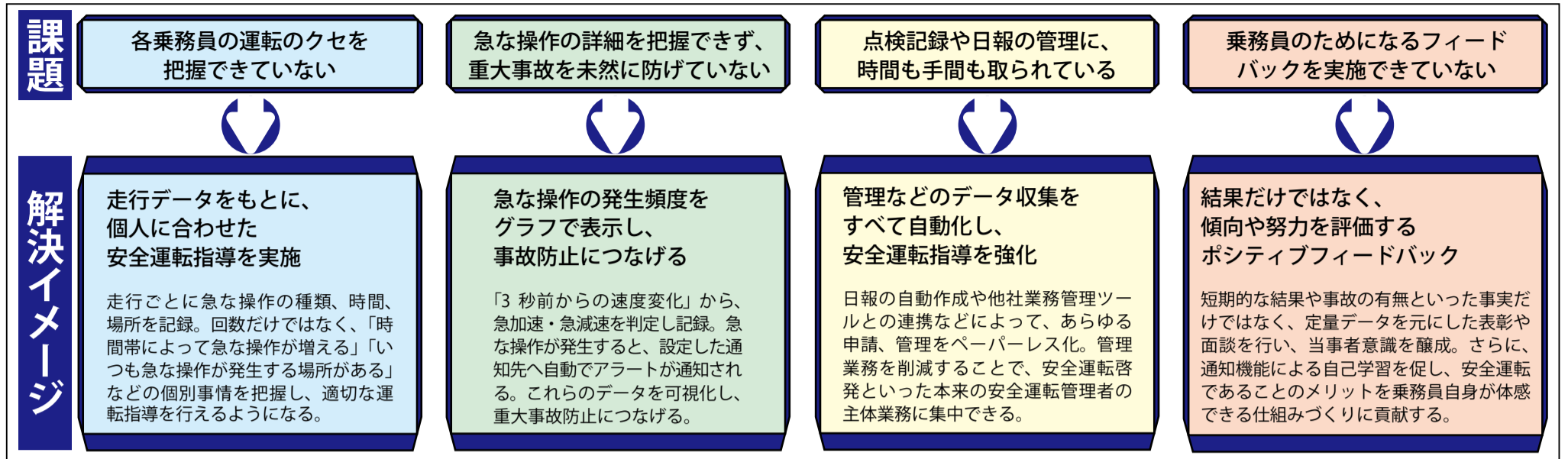
SJ ホームページは



編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL：03(5412)1736  
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/  
編集人：鈴木英樹

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。  
（株）アストクリエイティブ安全運転普及本部係  
TEL：03(5439)1191  
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

安全運転強化に向けた活用イメージ



すれば、運転のスキルやクセを安全運転管理者が把握できるため、ピンポイントでの安全運転指導が可能になる。

HFMはGPSからの位置情報を毎秒取得し、10秒ごとに管理画面の地図上に反映する。誰がどこを走っているのか(移動中/停車中を識別)はもちろん、進行方向、最後の停車位置などが一目瞭然なのである。

運転中の急な操作は事故の原因につながるため、3秒前からの速度変化で急加速・急減速を判定し記録。急発進や急停止の回数を数値化することにより、乗務員の危険運転や運転のクセを可視化し、レポートとしてまとめられる。

例えば、乗務員にいつもとは違う運転操作が見受けられた場合、管理者は異変に素早く気づき、声をかけることでフォローできる。また、危険運転が発生した箇所は地図上で確認でき、危険運転の多発箇所を特定し、ヒヤリハットマップを作成して共有すれば、該当箇所を回避する、走行速度を落とすなど、事前に指導もできる。

「運転特性の可視化によって、無意識に危険な操作をしていたことに気づいていただけでしょう。自分の運転特性を認識でき、意識向上につながると考えています。さらに、常に見られているとの思いによる危険運転の抑止効果も期待できます」と相川さんは話す。

HFMによって、管理者は客観的なアドバイスができ、乗務員側も高い納得感をもって安全運転に取り組めるといえる。

走行ルートの自動記録で稼働状況を把握し、業務改善へ

HFMには乗務員が走行したルート、日時をシステムが自動で記録し、整理、保存してくれる機能がある。記録された走行データは管理画面からいつでも確認できるため、振り返りを実施することで適切なルート改善につなげられる。また、運転に慣れていない乗務員には、ゆとりをもたせたルートや交通量の多い時間を避けた効率の良いルートを提案するなど、安全かつ効率的なルートを策定することが容易になる。

さらに、走行ルートや時間が自動集計されるため、乗務日報も作成してくれる。乗務員がコメントを入力するだけで、乗務日報が自動的に出来上がる仕組みになっており、記録の正確性や公平性を担保しつつ、ペーパーレス化や業務時間の削減が期待できる。申告ベースの労務管理だけではなく、移動距離や時間といった事実ベースの管理を行うことで、働きやすい環境づくりにも活かせる。

「今後、記録された走行データの一部を二輪販売店と共

有できる環境を整えば、早めの部品交換など予防整備の提案も可能になります」と相川さんはいふ。

フードデリバリー業界を中心に普及が進むHFM

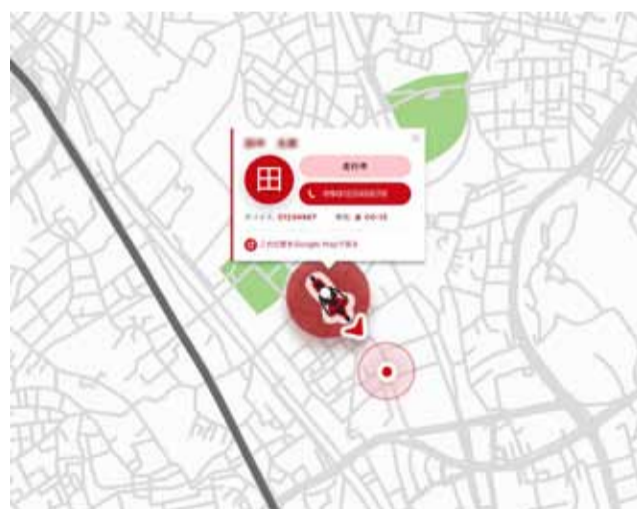
「コロナ禍が長期化していることから、スムーズに移動でき、密を避けられる二輪車の有用性に注目が集まっています。さらに、外出自粛による“巣ごもり需要”の拡大がフードデリバリー業界の二輪車需要を後押ししているようです。需要が伸び続けるなかで、安全性における課題を抱えている企業は少なくないと思います」と、相川さんはフードデリバリー業界を中心にHFMを普及させていきたいと話す。

フードデリバリーの場合、毎日の決まったルートはなく、その都度ルートが異なり、初見の道路を通るケースが少ない。乗務員はアルバイトスタッフが中心で、運転技術は初心者から熟練者までバラバラだ。そのため、画一的な教育だけでは事故を防止できないケースもある。このような課題を解決へと近づけるためには、事故の原因になりそうな走行ルート、乗務員ごとの運転のクセなどを細かく把握し、適切な指導を行わなければならない。

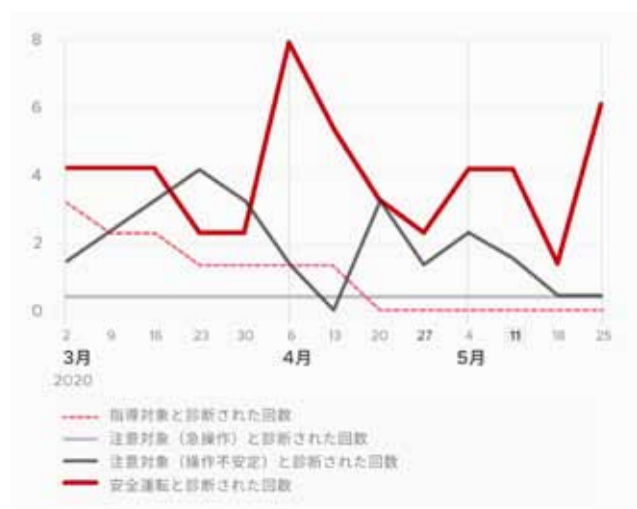
宅配ピザの店舗を運営するA社はデリバリー業界で



誰がどこにいるか、地図上でリアルタイムに確認できる。二輪車のアイコンの色によって走行中か停車中かを示され、移動中のアイコンは進行方向まで把握できるようになっている



急な操作が発生した場合、走行ごとに発生場所と内容を地図上に可視化



注意対象(急な操作や操作不安定)と診断された回数などをグラフで表示



走行中だけでなく、アイドリングしている時間もわかる

HFMを取り入れている企業の一つ。ピザの配達やチラシの配布で日々、Hondaの三輪車を活用しており、今年4月、まず1店舗に導入した。

A社の安全運転管理責任者は「デリバリースタッフの多くが目標や目的があってアルバイトをしている方々です。だから、仕事に交通事故でケガをしてほしくないのです。HFMによって、危ない場面があったと店長が感じたらスタッフに声をかけ、適切なタイミングで指導することができるなど、事故を防ぐための有効なツールになると思いました」と導入の目的を語る。

「HFMを使ってスタッフの運転状況を見ると、意外にも店に一番近い一時停止標識のある交差点で急停止が最も多く発生していました。通る頻度が多く、もうすぐ店に着くという安心感もあるのでしょう。事故につながる可能性が高いので早速、交差点に入る前に目視で十分に安全を確認するように指導しました。また、同じ配達先でも人によってかかる時間に差が生じているなど、これまではわからなかったことが見えるようになってきました。店長による追走指導を行っていますが、こうしたデータはそれを補完するために活用しています」。

さらに安全運転教育の面以外のメリットとして、稼働している三輪車のリアルタイムの位置情報を地図上で確認できる点を挙げる。

「アルバイトで働いているスタッフは主に地元出身ではない大学生で、土地勘がありません。慣れるまでは、道を間違えたり、自分が今どこにいるかわからなくなることがあります。特に夜中だと、目印になるものが見えなくなるので、店側が電話でスタッフのいる場所を特定するまでに時間がかかります。HFM導入後は店側でリアルタイムの位置や車両のアイコンから進行方向もわかっているので、スタッフに的確な指示を与えることができます。このような問題を解決する時間も大幅に短縮できるようになりました。お客様に対しても『現在〇〇付近を走行していますので、あと何分着きます』と今までよりも正確な到着時間をお伝えできます」。

このように、HFMを導入した店舗がデリバリースタッフの安全運転教育を充実させ、業務の効率化も実現していることから今後、他店舗にも導入する予定だという。HFMはフードデリバリー以外の業界でも活用されている。ビルメンテナンスを主とする建物総合管理企業の(株)ビルスキル(東京都豊島区)は、分譲・賃貸マンションの清掃業務に特化したサービスを提供している。新規事業を展開するにあたり、HFMを導入した。同社取締役社長 長谷川雅士さんは導入の効果を次のように説明する。「新規事業は三輪車で清掃の巡回をしたり、ゴミの搬出・搬入を行うというものです。当初は



(株)ビルスキル 取締役社長 長谷川雅士さん

最適なルートを考えずに現場のシフトを組んでいたため、管理も不十分で非効率な状態でした。夜間部のスタッフは、就業時間が深夜0時から翌朝8時までになりますが、所々で休憩を取りますので、結果として終業時間が朝の9時や10時になっていました。そのため、労働環境を改善し業務を効率化させ、定時に終業することが第一の目標でした。導入後は早ければ朝7時ぐらい、平均しても朝8時には終業・解散できるようになりました。2時間ほど時間が削減できるようになったのは大きな成果です。

ホンダモーターサイクルジャパンはHFMを通じ、ビジネスに二輪車を導入している法人企業のさらなる業務効率化に寄与するとともに、業務スタッフの負荷軽減と労働環境、安全面の向上に貢献していきたい考えだ。

主な対応機種

(電動二輪車)  
ベンリィ e: I、ベンリィ e: I プロ、ベンリィ e: II、ベンリィ e: II プロ

(ガソリンエンジン車)  
スーパーカブ50、スーパーカブ50 プロ、スーパーカブ110、スーパーカブ110 プロ、ベンリィ、ベンリィプロ、ベンリィ110、ベンリィ110 プロ、ジャイロX、ジャイロ キャンビー

ビジネス用を中心に車載通信機が装着可能なHonda二輪車。ガソリンエンジン車はPGM-FI採用の車両に限ります。ガソリンエンジン車への車載通信機取り付けには、別途、専用コネクタが必要です。対象機種の詳細は、お申し込み時にご確認願います。



走行するだけで、走行距離・走行時間などの日報を自動作成してくれる



登録した住所の指定半径内へ車両が到着した場合、自動でメール通知する機能もある

## 5つの強みで特別な価値をお届け Hondaが長年培ってきた数多くの実績をもとに、納得の効果を実感いただけます。

①車両とのトータルケア

長きにわたり業務二輪車両を提供してきた実績があります。車両とセットでの導入や、EV化による脱炭素への取り組みなど、二輪に関する業務全般を最大化いたします。

②専用車載器ならではの高精度な走行データ

車両取り付け型の専用車載器であるため、確実なデータ取得が可能です。また、精緻なデータを取得し活用することで、ルート最適化や安全運転の質を高める取り組みを今すぐ開始できます。

③“使える”データを提供

「データを取得したけど、その後どうすれば良いかわからない」という声をよく耳にしますが、Honda FLEET MANAGEMENTでは、確実に改善へつながるための様々なアプローチをご用意しております。

④圧倒的な使いやすさ

洗練されたデザインや機能で、多くのお客様から「使いやすい」との評価をいただいております。

⑤安心のサポート体制

お客様のご負担を軽減、また効果を最大化するため充実したサポートをご用意しております。

サービスの詳細や料金については以下のホームページからお問い合わせください。  
<https://www.honda.co.jp/FleetManagement/>

